



佐賀鹿島備前に視察に行ってきました！

11月16日、恒例のNPO「オヤジ5人衆」で、佐賀県鹿島市にある肥前浜宿へ視察に行っていました。肥前浜宿は、江戸時代から長崎街道の宿場町として栄え、また酒造りが盛んなことでも知られています。古い酒蔵が軒を連ねるほか、白壁や茅葺（かやぶき）屋根の民家など、歴史的な建物が大切に保存され、現代に活かされている様子を拝見することができました。



肥前浜駅で記念撮影

道中は、佐賀平野の雄大な景色を眺めながらの片道2時間。現地に着いてすぐの出来事は、私たちの心に深く刻まれました。観光列車「ふたつ星 4047」が発着する肥前浜駅で、なんと生まれて初めて、温かいお出迎えとお見送りを体験したのです。鹿島の方々の熱いおもてなしの心には、メンバー一同、深く感銘を受けました。町並みを歩くと、美しく整備された白壁の家々や趣のある茅葺屋根の建物が続き、清らかな水が流れる水路の音も心地よく響きます。そこからは、昔の宿場町として栄えてきた歴史が、ひしひしと伝わってきました。単なる歴史の保存にとどまらず、地域に根差した人々の暮らしや文化が息づく、大変魅力的な町並みでした。



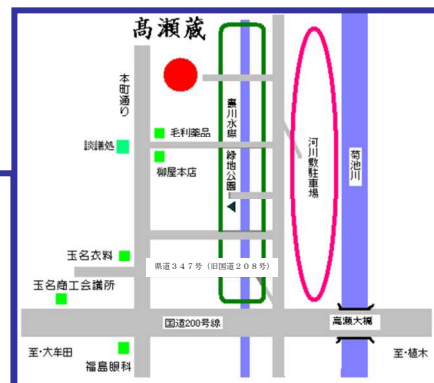
白壁の町並み



茅葺の民家

『喰わせ所 こんこん』がオープンしました！

空き店舗となっていた一階テナントに、飲食店「喰わせ所 こんこん」が12月15日にオープンしました。軽食を中心とした和食のお店です。皆様のご利用をお願いします。



NPO 法人 高瀬蔵

熊本県玉名市高瀬 155-1 (〒865-0025)

TEL・FAX 0968-72-2480

E-MAIL info@takasegura.jp

URL http://takasegura.jp

開館時間 10:00~22:00 (イベント開始時間により変更あり)

◆◆◆ 丙午 ◆◆◆



アート in 高瀬 芸術祭「崇城のリッタイ展」

令和八年 新年ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

高瀬蔵の運営につきましては、日頃よりご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます。管理運営の一元化の実施から二年あまりを経過しましたが、昨年一年間も無事業務を果たすことができましたことをご報告するとともに、皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

年間の事業については、これまでの経験を活かし、お客様に楽しみ親しんでいただける催しを開催いたしました。特に四月には「高瀬蔵二十歳の祝い」として、昼の部を子供や幅広い年齢層の方に楽しんでいただけたようなコーラス、ダンス、劇など地元の方々に出演をお願いし、夜の部は、お酒とジャズで大人の洒落た雰囲気の中で二十周年の祝いの会を賑やかに催すことができました。

五、六月の花しょうぶまつり期間では、恒例の窯元展、ブランド物産展が初めて合同開催を実現され、これまで以上の集客、売上を得ることができました。八月にはこれまで経験したことのない水害被害が県下に発生し、多くの方々に心配いただきましたが、雨漏りや浸水被害もなく胸をなでおろすことができました。そして、何より大きな懸案であった一階テナントへの入居が決定し、このご挨拶がお手元に届く頃には、お話しそうな香りが高瀬蔵に漂うのではとご報告いたします。

今後の運営につきましては、諸物価の高騰対策、運営スタッフの確保、高瀬蔵への集客やホール利用につながる事業などを検討しながら、より活気ある高瀬蔵を目指して行く所存であります。つきましては、本年もこれまでと変わらなく高瀬蔵を見守り応援していただきますようお願いし、皆さまにとって健康で実り多き一年となりますよう祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

理事長 猿渡 公予



アートin高瀬 芸術祭「崇城のリッタイ展」



崇城大学芸術学部 3D アートコースの学生と教員による展覧会「崇城のリッタイ展」が、昨年に引き続き第2回目の開催を迎えました。

会場には、彫刻作品をはじめ、3D プリンターで制作されたフィギュアやパネル、そして動画など、多岐にわたる作品が展示されました。これらの作品はすべて、タイトルにもある「リッタイ（立体）」を強く意識して制作されており、その中には「静」と「動」という異なるアプローチが見られたのが特徴です。

具体的には、彫刻やフィギュアが形として存在する「静」の立体表現であるのに対し、映像作品は時間軸を伴う「動」の立体表現として来場者の注目を集めました。今回、「動」の3D 作品は、昨年と同様にプロジェクターを用いて会場でエンドレス上映いたしました。

本来であれば、専用の VR ゴーグルなどの機材を使用し、専門スタッフの指導のもとで体験いただくのが理想的であると考えております。そこで、来年の開催時には、会期中に日時を限定して「VR 体験ワークショップ」の実施を検討して参りたいと思います。



学生とのオープニングパーティーの様様



高瀬界隈巷間新第32話



10月23日夜、「39年のサラリーマン生活を終えたオヤジが昭和5年建築の町家をリノベーションしてカフェを始めるまでのお話」と題し開催しました。

お話は、当法人理事で cafe マチキチのオーナー清水千尋氏。高瀬のまちで長年空き家となっていた築95年の歴史ある町家を、持ち前の情熱と創意工夫で再生し、魅力的なカフェとして新たな命を吹き込まれた方です。清水さんは、なぜこの町家を選び、カフェを始めるに至ったのか、その道のりでの苦労や葛藤、そして完成に至るまでの喜び、さらに地域への深い思いを、参加者一人ひとりに語りかけるようにお話しく下さいました。彼の熱意と地域にかける思いに、会場は深く感銘を受けていました。

清水さんの活動が高瀬の活性化に大きく寄与することを、私たちも心より願っています。皆さんもぜひ一度、高瀬のまちを訪れ、歴史と新たな息吹が共存する魅力を肌で感じてみませんか？きっと新しい発見があるはずです。

肥後五か町シンポジウム in 八代



「肥後五か町シンポジウム」は、令和元年に玉名市で開催した初回に続き、第2回が11月29日のシンポジウム、30日のまち歩きと2日間にわたり、八代市で開催されました。

江戸時代の熊本藩においては、熊本・八代の両城下町と、高瀬・高橋・川尻の主要な港町は「五か町」と呼ばれ、町奉行の支配のもと、有力な町衆による自治が行われていました。本シンポジウムは、この「五か町」という共通の歴史的基盤と伝統を持つ各地域が、先人たちの遺産を継承し、現代における地域活性化のあり方を共に学び、考察する貴重な機会となっています。当日は、基調講演の後、「五か町」の各地域を代表するパネリストによるパネルディスカッションが催され、高瀬からは、当法人理事で「玉名遺産を活かす会」幹事を務める佐藤夕香氏が登壇しました。

高瀬蔵は本シンポジウムを後援したほか、「五か町」の連携とアピールを提唱した会員の森高清氏（92歳）と理事2名が参加し、意義深い交流を深めました。